

704

【取扱い厳重注意】

平成24年4月3日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局
局員 齊藤 修啓

平成24年4月3日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりであるので報告する。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

東京電力1F放射線安全グループ 本間宏

2 聴取日時

平成24年4月3日午後1時30分頃から同日午後2時00分頃まで

3 聴取場所

Jビレッジセンターハウス

4 聴取者

岡田 幸大 参事官補佐

齊藤 修啓

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

別紙のとおり

1F免震重要棟に届いていたAPD300個の連絡について

第3 特記事項

以上

【取扱い嚴重注意】

別紙

1. 被聴取者について

私、本間宏は、福島第一原子力発電所（以下「1F」という。）の放射線安全グループの職員である。APD や GM 計数管等の放射線計測器の管理や発電所全体の長期的な被ばく低減対策の立案等の業務を担当していた。震災後は、保安班に属し、主に防災資材や APD の貸出し管理を担当するようになった。3月11日から21日まではずっと免震重要棟の緊急時対策室にいたが、21日に母親を亡くして一旦1Fを離れ、4月1日に戻った。

2. APD の管理について

事故発生後、当初は免震重要棟内に防災資機材として保管してあった50台を用いていたが、数が足りなくなってくることを見越して、固体廃棄物貯蔵庫に残っている APD 等を回収し、12日には合計で300個以上を確保することができた。この頃は、プラントが危険な状況で、APDを持って現場に入る人がそれほど多くなかったが、APDの残数を確認していて、これ以上借りに来たら、1人1個渡すのが難しくなりそうだと認識したのが、15日頃だったと思う。15日は、福島第二原子力発電所への一時退避で、一旦はほとんど人がいなくなったが、その後どんどん人が入ってきて、あっという間に足りなくなったという記憶である。

APD等の調達については、班長のレベルでやってくれていると考えていたため、自分から本店などに調達を要請したことはない。また、保安班長から、どこどこに要請した、という話をときどき聞いていたと思う。

3. 柏崎刈羽原子力発電所送られた APD について

12日に柏崎刈羽原子力発電所（以下「KK」という。）から APD が届いていたのであるが、KK から応援に来た ■■■ GM から、KK から APD が届いていると言われた記憶はない。APD は、充電器と警報設定器がセットでないと使えないので、もし言われたとすれば、それらがあるのかを確認したはずである。充電器がないと言われたならば、使用できないと考え、その APD があることは重要ではない事項と判断して、記憶からはなくなってしまったのかもしれない。

15日頃に APD が足りなくなったが、この時に KK からの APD があると思い至ることもなかった。免震重要棟内で APD を探そうという話にもならなかった。15日頃に、APD の貸出しを担当する保安班員の間で、1グループに APD を1個貸し出し、グループ全員の線量を管理するという運用（以下「グループ運用」という。）について検討し、保安班長に、グループ運用を実施することについて相談した。保安班長は、所長及び本店と相談して、ゴーサインを出したのだと思う。

APD は完全受注生産のため、発注していなければ、メーカーに在庫があることはない。また、各発電所ごとに機種や充電器の規格も異なるため、他の発電所から APD を送ってもらうことは、その頃は考えていなかった。また、その頃同様に足りなかったタイバックやチャコールマスクは、APD のグループ運用のような運用ができないため、APD よりも優先して考えていたということもあったかもしれない。